

中間取りまとめ 目次案

章	タイトル	ページ
第 1 章	はじめに	1
	1.1 有明海・八代海等総合調査評価委員会の経緯	1
	1.2 有明海・八代海等総合調査評価委員会報告について	1
	1.3 平成 28 年度委員会報告における基本的な考え方と再生目標	2
	1.4 水産資源再生方策検討作業小委員会及び海域環境再生方策検討作業小委員会の設置について	4
	1.5 中間取りまとめの位置づけ	4
	1.6 中間取りまとめ作成の経緯について	5
	1.7 中間取りまとめの構成	6
第 2 章	有明海・八代海等の環境等の状況	1
	2.1 汚濁負荷	2
	2.1.1 排出負荷量	2
	2.1.2 陸域から海域への流入負荷量	2
	2.1.3 海域への直接負荷量を含めた汚濁負荷量	2
	2.1.4 まとめ	4
	2.2 河川からの土砂流入	5
	2.2.1 大雨等の状況	5
	2.2.2 河川流量の状況	8
	2.2.3 近年の豪雨による土砂の発生	10
	2.2.4 まとめ	15
	2.3 潮汐・潮流	16
	2.3.1 潮位の状況	16
	2.3.2 潮流の状況	18
	2.3.3 まとめ	18
	2.4 水質	20
	2.4.1 水質環境基準達成率の推移	20
	2.4.2 水質の動向	23
	2.4.3 まとめ	30
	2.5 底質	34
	2.5.1 有明海の底質の分布状況	34
	2.5.2 有明海・八代海の底質分布と経年変化	35
	2.5.3 その他の海域の底質及び底質中の重金属・有害化学物質	44
	2.5.4 まとめ	44
	2.6 貧酸素水塊	45
	2.6.1 有明海の底層溶存酸素量の状況	45
	2.6.2 貧酸素水塊の発生状況	51
	2.6.3 貧酸素に関わる酸素消費特性	54
2.6.4 貧酸素の経年変化特性	54	
2.6.5 気候変動が底層溶存酸素濃度に与える影響	56	
2.6.6 まとめ	57	
2.7 藻場・干潟等	59	
2.7.1 有明海・八代海の藻場・干潟	59	
2.7.2 海洋ごみ	62	
2.7.3 まとめ	63	
2.8 赤潮	64	

	2.8.1 赤潮の発生状況	64
	2.8.2 赤潮（種類別）の特徴について	66
	2.8.3 有明海における赤潮による漁業被害（ノリ養殖等）	68
	2.8.4 八代海における赤潮による漁業被害（魚類養殖等）	81
	2.8.5 橘湾における赤潮による漁業被害	86
	2.8.6 まとめ	86
	2.9 生物	89
	2.9.1 有明海・八代海等を中心に生息する生物（固有種、希少種等）	89
	2.9.2 ベントス（底生生物）	90
	2.9.3 有用二枚貝	102
	2.9.4 魚類	118
	2.9.5 養殖業生産量	123
	2.9.6 漁業・養殖業生産量	128
	2.9.7 まとめ	130
第3章	再生方策等の実施状況等と課題の整理	1
	3.1 生物の生息環境の確保	8
	3.1.1 底質の改善、河川からの土砂流入量の把握	8
	3.1.2 藻場・干潟の分布状況等の把握、漂流・漂着・海底ごみ対策	8
	3.1.3 水質（貧酸素水塊の軽減対策、赤潮対策）	9
	3.2 ベントスの変化	10
	3.2.1 ベントス群集・底質の継続的なモニタリング	10
	3.2.2 ベントス群集の変化・変動要因の解析	11
	3.3 有用二枚貝の減少	11
	3.3.1 タイラギの生息状況や浮遊幼生の出現状況	11
	3.3.2 タイラギの立ち枯れへい死の原因解明	12
	3.3.3 タイラギ母貝団地の造成と移植、種苗生産等の増養殖技術と種苗放流・移植	13
	3.3.4 アサリ浮遊幼生の出現状況	13
	3.3.5 アサリの資源再生、母貝生息適地の保全・再生	14
	3.3.6 エイ類等の食害生物の駆除・食害防止策	14
	3.4 ノリ養殖の問題	15
	3.4.1 ノリの色落ち	15
	3.4.2 環境負荷の軽減に配慮したノリ養殖技術の確立	15
	3.4.3 水温上昇等に対応したノリ養殖技術の開発	16
	3.5 魚類等の変化	16
	3.5.1 魚類漁獲量等の状況	16
第4章	再生方策に共通する今後の課題	1
	4.1 データの蓄積等科学的知見の充実	1
	4.2 関係者による連携強化と情報の発信・共有の推進	1
	4.3 再生目標と再生方策等との関連性の明確化と他事業等との連携強化	2
	4.4 令和8年度委員会報告に向けた取組	2

資料編	・汚濁負荷量、水質（公共用水域、浅海定線調査等）、貧酸素水塊（公共用水域等）等のデータ更新をしたグラフ等	50～100 ページ程度
	・関係省庁等の取組をケーススタディとして掲載	70～90 ページ程度